

第6回 市政報告会



10月12日から開催しました「市政報告会」の内容や参加者からのご意見等の一部を紹介します。

はじめに

市長 佐藤義興

10月12日から11月2日まで各小学校区11ヶ所で開催しました市政報告会は、約500名の方々にご参加をいただきました。

私をはじめ副市長、教育長、各部長が出席させていただき、質疑の時間では、地域の皆様のご意見やご提案を直接伺うことができました。そして、市民の皆様が何を望んでいるのかを知ることができ、限られた時間でしたが、有意義な報告会となりました。今回、会場でもいただきました貴重なご意見やご提案につきましては、今後の市政に反映させ、阿蘇市の発展につなげて参ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

◆報告の内容

- 市の財政状況について
- 阿蘇中央病院建設事業の概要について
- 子育て支援の取り組みについて
- 阿蘇市の観光について
- 草原再生と畜産振興について
- 学校規模適正化計画と教育課の取り組みについて

※詳細は阿蘇市ホームページに掲載しています。

◆各会場での質問と回答

11会場で出された意見や質問及びそれに対する回答を一部紹介します。(順不同)

問 現在横堀地区に養豚場が建設されているが市が誘致したのか。

答 誘致したものではない。民間の企業として横堀地区に建設中であるが、横堀地区で協議し決定されている。市としても議員・区長・農業委員等にも説明した上で支障がないということで建設が進んでいる。(市長)

建設地はほとんどが農振地域であり、一部山林もある。養豚場については、農業用施設であり、農振除外は必要ないが、用途区分変更の手続きは必要なので、農振委員会の中で審議している。林地開発許可については、1ha以上は許可が必要であり、開発要件に際しての許可も下りている。(経済部長)

問 波野温泉スタンドについて建設に至った経過を教えてください。

答 合併前からの地域からの要望により様々な検討を行ってきた。温泉センターの要望もあったが、収支を考えた場合、赤字が大き過ぎるとい

ことで慎重に考えてきたが、温泉を
利用したいとの要望も多い中、毎
年、泉源の調査に100万円以上費
用を要しており、少しでも皆さんに
活用してもらいたいとのことから建
設した。(総務部長)

当初は、波野保健福祉センターの
浴室に引く予定であり、予算計上を
した。しかし、図面が保管されてお
らず、配管等がどうなっているか分
からず、このまま工事を行なうこと
は基礎データがない状況では、建設
に莫大な費用が掛ることが分かっ
た。そこで、このまま温泉の活用を
止めるのではなく何らかの利用をし
てもらうことにした。(市長)

問 波野温泉スタンドに温泉を汲みに
行ったが、1時間半汲み続けても水
のままであった。何とか利用できる
ようにならないか。

答 現状では水温20度前後である。約
1100m掘ってあり水温32度、33
度を確保するとすれば、汲み上げ
モーターの24時間稼働が必要にな
る。古城の温泉センターと夢の湯は
50度、60度あり、汲み上げタンクに
貯めて42度、43度になっている。
約1100m掘っているが自噴は

700m位であり、残りの300m
をポンプアップすることになり水
温、費用ともに条件は厳しい。夏場
であれば、20度位の温度になると
思っているが、利用方法として、追
い炊き又はお湯を足す方法しかな
い。それ以外には温泉の成分が野菜
の消毒用にならないか検討したい。
(総務部長)

問 温泉の温度は汲み上がって来て水
温35度程度と聞いていた。水温が20
度であれば水と同じである。利用す
るにしても効率が良くない。今後ど
のようにして温度を上げるかを考え
ていただきたい。

答 各家庭に温泉を持ち帰って利用し
たい、野菜等の作物に利用したい等
の強い要望もあり、スタンドでも良
いから造って欲しい、活用していき
たいとの意見があり造った。ご理解
いただきたい。(市長)

問 荻岳の牧柵の件であるが、昭和58
年の設置から28年を経過している。
老朽化が著しく、早急な手当てが必
要である。

答 荻岳の牧柵は、老朽化に加え野焼
き等により傷みが激しい。牧柵とし

て鉄条網やコンクリート製の擬木が
必要であり、牧野組合と協議のうえ
手当てが必要である。延長もあり費
用的にも相当高額になると思われ
る。牧柵整備については事業主体な
しにはできないので、工夫し負担が
掛からないように現地確認も行いな
がら実施して行きたい。(経済部長)

問 阿蘇中央病院が移転新築される
が、波野診療所についても夜間・時
間外の診療を是非お願いしたい。
又、受付の窓が小さく、会話もま
まならないので改善を願う。

答 診療所の受付の窓の件、患者さ
んに説明する際には大事なことであ
るのでオープンカウンター等を今後
検討したい。又、夜間・時間外の診
療については、出来る限り対応した
い。(総務部長)

問 ドンガメ川、道尻幹線道路工事は
いつ始まるのか。

答 県の事業で平成24年度設計、5ヶ
年の工事計画である。(土木部長)

問 消防の広域化について、菊池広域
連合が参加しないが、メリットはあ
るのか。

答 国の推進により県が広域化計画を
策定し、当初一本化で進んだが県委
員会で中央、城北、城南、天草の4
ブロックに分けて進めることになっ
た。平成24年度中に広域化方針が決
定されないと広域化に伴う財政的優
遇措置が受けられず、消防無線のデ
ジタル化に伴い多額の経費が掛かる
ので協議をしているところである。

菊池広域連合は広域化に参加出来な
いと言う意思表示があり、現在3つ
の消防本部(有明、山鹿・植木、阿
蘇広域)で城北ブロックの協議を進
めている。最終的には熊本県で1本
化を前提とした4ブロックでの広域
化である。(総務課長)

菊池については、菊池市、合志
市、菊陽町、大津町で最近広域連合
化しているが、統一した見解に至っ
ておらず、城北ブロック参加への統
一した見解が出来ていない状況であ
る。阿蘇においては、庁舎建設やデ
ジタル化に多額の経費が掛かること
を念頭に置いているが、消防の自動
態勢についてきちんと協議を進めて
いくことが重要と考えている。現
在、本部を山鹿、通信指令を荒尾に
置くことが決まっている。今後は体
制の仕組み、職員配置、給与等を専

(次ページに続く。)

門部会で協議して行くが、阿蘇広域にとつてマイナスにならない広域化になるよう協議する。(市長)

問 TPP参加に関する阿蘇市の考えは。

答 TPPについては、国も安易にやつてもらおうと阿蘇のみならず日本の農業は大変なことになると思える。阿蘇市議会においても論議され、TPPへの参加表明反対を行ったところであり、慎重に取り組んでいく。(市長)

TPPにより関税がなくなった場合の影響は大きいと考えている。阿蘇市の農業形態としては、「土地利用型」「施設園芸」「畜産」の3つがあると思える。土地利用として地域を守っていくには集落営農の推進が必要と考えているが、まだ十分でない状況もある。アメリカやオーストラリアと比較したら規模としての対抗は難しいが、阿蘇地域の農業もまだまだ効率を図っていかなければいけない。

また、将来的には雇用形態まで確立していくことが必要であり、畜産の振興にも力を入れていくことが必要であると考えている。他にも重要な部分として、農業と観光の連携も

阿蘇が成り立つ手段の一つであり、図っていく必要がある。(経済部長)

問 公民館と集会所の違いを教えてください。

答 公民館とは、公おおやけの公民館のことであり公設公民館のことを言い、各行政区で設置した公民館は地域の集会所いわゆる自治公民館と解していた。当然、行政区の公民館である自治公民館は各行政区で管理していただくことになる。(教育部長)

問 学校の統廃合について、その後の施設、特に体育館については、地域に残して欲しい。

答 市として跡地利用検討会を設置し、方針を検討していく。(教育部長)

問 内牧駅の今後の活用について聞きたい。

答 内牧駅の業務については、現在、地元業者に委託している。駅は重要な役割を果たしており、今後もJRと十分に協議し、駅の活用を図っていききたい。(赤水駅も同様)

問 野焼きの際の火災発生時における防災無線放送の誤報(発生場所の誤り)については、訂正放送をしてい

たい。

ただきたい。

問 野焼き時の火災は、発生場所を特定出来ない場合が多く、今年の春は場所を特定するために野焼きマニュアルを作り説明会も行ったところであるが、活かすことができなかった。今後この様な事が無いよう努めていきたい。(経済部長)

問 行政区担当職員の配置について市の考えはあるか。大津町では各行政区に2名配置されている。

答 地域担当者については行政改革の中で議論をしているところであり近々結論を出す予定であるが、地域と職員が掛け離れることがないよう方策を検討していく。(総務部長)

問 風力発電施設の設置について、震災以降、自然エネルギーが注目されているので、北外輪山に誘致できないか。

答 新エネルギーであるソーラーシステムについても、国で検討されているが、阿蘇市の場合、場所によって朝日が当たる場所、夕日が当たる場所等、それぞれに問題があると聞いている。阿蘇市においても、自然エネルギーを考えていく必要がある、

今後、それぞれの地域にあったものを考えていきたい。(市民部長)

西原村の風力発電については、民間会社が経営している。九州には風力発電所が多く、産山村も以前、調査を行ったことがあるが、採算ベースに合わず、断念したと聞く。

また、かつて北外輪山(狩尾地区)の風力発電施設の建設について話が合ったがその後、企業からの連絡は来ないままである。

水力発電についても、民間会社が事前調査を行ったが、水量不足で断念したところであり、自然エネルギーを安定的に供給するためには、条件が揃わないと難しい。(総務部長)

問 お知らせ端末については、素晴らしい伝達方法であり感謝している。これを全戸に普及させて活用すれば、伝達関係のコストが削減できるので、今後も無償で設置すれば普及も進むのではないか。

答 広報あそ10月号で利用促進等について掲載した。8割強の設置率となっているが、アパートについては定住しないこともあり、設置が少ない状況である。

この事業は国の補助事業を活用し

ていく必要がある。

て行ったので、昨年度は無償で設置できた。ただし、特殊事情があり、設置ができなかった方には無償で提供するようにしたので、未設置家庭については情報課（☎22・3253【直通】）へご連絡願いたい。

また、女性の会や老人会の会合等様々な機会に操作方法を説明している。（総務部長）

問 国土調査について、昭和40年代に旧一の宮町で開始され、その後休止したが、昨年一部再開された。波野地区も実施中であるが、一の宮町地区の今後の計画はどうなっているのか。

答 一の宮町地区の国土調査は約26%終わっている状況である。一昨年宮地地区の一部を行ったが、現在は休止し、今は波野地区を1年間1kmのペースで行っており約2千万円の費用を要している。国土調査は国の補助を受け行っており、平成22年度から10年計画を立て波野地区を中心に行っている。一の宮町地区はその後の再開となる。

地籍調査では、境界確定が難しく、関係者の了解のもと確定し進める必要があるので、きちんとしておかないと相続や売買に支障をきたす

ことになる。

また、今回のような大災害が発生した場合、地籍調査が終わっていないと境界確定が困難となるので所有者の理解を得ながら行う必要がある。（市民部長）

問 シルバースポーツ大会や月1回開催のシルバーヘルパー講習会が地域の行事（地区の祭りやブランドゴルフ）と重なるので、日程の調整をお願いしたい。

答 シルバースポーツ大会は旧3町村で開催しており、その日程については、老人クラブの役員さん方とも協議し決定している。今後も、老人会との協議の中で進めていきたい。

また、サロン活動の講習会についても、関係機関との協議が進めたい。例えば都合がつかなかった方には、補講のような別の形でフォローできないか調整したい。（市民部長）

問 国からの補助金や交付税は期待できない状況にあり、政局も不安定である。報告の中では扶助費が年々アップしているとのことであるが、収入（歳入）に応じた歳出とすることはできないか。

答 扶助費は報告のとおり年々増加している。反対に、景気動向等により自主財源は下がっている。扶助費は、福祉的なものを中心であり、支出を減らすことはできないのが現状である。最低生活の保障が憲法にもうたっており、時代によって最低生活費も変わってきているが、阿蘇市としては、国の基準に沿った形で福祉関係諸施策を進めており、その福祉サービスの質を下げることが考えていない。（市民部長）

問 新しい阿蘇中央病院には、産婦人科がない。小国公立病院も廃止になった。少子化対策に逆行するのはないか。

答 産婦人科の病院については、地域医療再生計画の中で、阿蘇温泉病院がその役割を果たすことになっている。阿蘇市内を見てみると、年間約200人の出生であり、阿蘇中央病院に産婦人科をつくることは計画されていない。（市民部長）

問 新病院の採算性について、損益をどう見ているのか。

答 医療費の総額は、後期高齢者医療・国保等を合わせ、年間約80億

ある。しかし、その約半分は、阿蘇市外における受診となっている。地域受診の割合を上げることにより、採算ベースに合うものと考えている。（市民部長）

問 まちづくりの基本は、人口増であり、雇用創出はその土台となるものである。雇用があれば人も住んで活性化する。雇用創出にどう取り組むか。

答 雇用の創出については、企業誘致を軸として進めてきた。しかし、円高や経済状況の変化により、国内投資は少なく、企業も海外に目が向いている。流通の点を見ても、高速道路に近いところに企業も進出し、地理的なハンディーがある。観光や農業の振興は、旧町村からそれぞれに頑張ってきたところであるが、TPPの関係もあり、今後は厳しくなることが予想される。福祉関係は、求人が出てはいるものの、長続きせず若い人には難しい。（総務部長）

【問い合わせ先】

総務課 秘書政策室 ☎22・3111
（お知らせ端末） ☎55・3111